天ヶ瀬ダム再開発に関し宇治川の住民の意見をどう反映したのか？

委員　本多　孝（住民参加部会、猪名川部会、淀川部会）

５ダムについての検討結果が、発表された。その中で流域委員会が妥当と判断した天ヶ瀬ダムの再開発問題がある。１５００t 放流については、いろいろ意見があるようだがその必要性については、河川管理者から今後も住民理解を得る真摯なそして粘り強い説明を期待するが、宇治川の河道掘削には、地元から景観・環境・防災上の理由で反対もしくは危惧の声が上がっている。

住民は、塔の島の清掃をされ愛着をお持ちのようだ。また、漁業関係者や観光関係者からも心配の声があると聞くし、議会からも意見書が出た。

住民対話集会が行われさまざまな点が整理され、意見書にまとめられたが、それを河川管理者は、どのように評価し、反映させたのか、住民にとって疑問が残るところではないか。

河川管理者は、委員会に住民意見の聴取と反映の方法について付託し委員会は、住民対話集会を提案した。これは、住民の意見のガス抜きの場や「これだけ会を重ねて議論したのだからこれ以上は限界」と開発続行のアリバイに使われても困る。

住民対話集会を重ね、どのような基準になったら、やむをえないと判断したり代替案の変更を検討したりするのか、その基準がないと不透明なものになるのではないか。今後住民との連携での河川管理に支障がでたり、河川管理者に対するいらぬ不信感を住民に持たせてしまうことにならないか。

天ヶ瀬ダム再開発は流域委員会の妥当と言う判断はあっても、塔の島の問題については、景観や環境、住民・議会の意見についてのきちんとした対応をいただき、多くの宇治市民が望むのであれば河道掘削でない方法の検討も必要ではないかと考える。

その場合の基準が明確であり誰が見てもわかるかたちにし、議論を重ねその基準になれば、続行するとか別の方法を考えるなど「住民意見の聴取と反映の方法」が透明であることが必要と考える。

住民対話集会では、意見書の作成がされたので、聴取と言う点では効果があったと思われるが、反映は、河川管理者の判断の中にゆだねられた形になっている。委員会としても改善や提案の検討が必要と思う。また、対応後の河川管理者の住民説明も以前に増して行う必要を感じる。